

青谷上寺地遺跡保存整備活用基本構想案に 寄せられた県民の意見について

1 意見募集の方法

募集期間

平成16年10月12日から11月12日まで

基本構想案の概要

(遺跡の評価)

青谷上寺地遺跡は海を介した交易を行った、交易拠点としての港湾集落。

(遺跡の保存)

開発行為から守るため、国史跡指定による保存を図り、必要な土地の公有化も検討します。

(遺跡の整備)

青谷上寺地遺跡ならではの整備を行います。

(遺跡の活用)

調査研究、展示公開、収蔵保管の機能を持ち合わせた拠点施設を核として地域に根ざした活用を図ります。

2 寄せられた意見の概要

意見総数

合計 263件	内訳：遺跡の保存に関する意見	36件
	遺跡の整備に関する意見	67件
	遺跡の活用に関する意見	154件
	その他の意見	6件

意見のうち多かったもの

(遺跡の保存について)

- ・「大切に保存し、後世に残すべきだ」 17件
- ・「地元の意識、関心を高めることが必要」 5件

(遺跡の整備について)

- ・「復元でもいいので、遺構や遺物が出土した様子が見たい」 11件
- ・「古代体験ができる整備を」 10件

(遺跡の活用について)

- ・「体験活動、学習活動ができる施設が必要」 18件
- ・「もっと多くの人に興味、関心を持ってもらうことが必要」 13件
- ・「他の遺跡や観光と連携した活用を」 12件
- ・「展示室の拡大、展示品の充実を」 10件
- ・「出土品の適切な保管、管理、公開ができる施設が必要」 10件
- ・「学校教育との連携を」 6件
- ・「生活の様子を再現するなど、よく分かる展示を」 5件
- ・「遺跡の活用には、地元の理解と協力が必要」 5件

寄せられた様々な意見の抜粋

(遺跡の保存について)

「日本を代表する弥生時代の遺跡を未来へ残すため、国史跡として保存・整備を行うことは、将来に向けて必要と思います。」
(県内西部)

「今までこれだけの展示を見たことがありません。ぜひこの遺跡の保存、継続調査を続けてほしいと思います。」
(県外)

(遺跡の整備について)

「発掘現場は埋め戻されてしまうが、一部でも実際の出土状況が見られるよう整備をすることができないか。」
(県内東部)

「建物の復元は不要。今となっては本当の姿は誰にも分からないはず。復元はあくまでも想像にすぎない。それよりは遺跡の保存に主眼をおくべきで、どうしてもというならネット上にヴァーチャルでも復元したらどうでしょう。」
(県内)

(遺跡の活用について)

「弥生時代の脳が発見されたときは関心があったのですが、しばらくするとだんだん薄れてきたように思います。いろいろなメディアを通じてもっとPRしたり、看板を国道沿いに設置したりしたらと思います。」
(県内東部)

「発掘現場の見学もそうですが、作業場（接合、実測）の一般公開などをしたらよいのではと思います。」
(県内東部)

「資料館は展示だけでなく、田んぼや祭礼跡の遺構の上にガラスの床を置いて、上から見学できればいい。」
(県内東部)

「ただ展示物を並べるだけでなく、弥生時代にタイムスリップできるような部屋（空間）があると、その時代に浸ることができると思う。」
(県内東部)

「子どもたちが歴史や自分たちのルーツを感じることでできる展示や体験ができるようにしていただきたい。そして青谷の子どもたちが自分のふるさとに自信を持てるようにしてほしい。」
(県内東部)

「遺物が同じ市内とはいえ、博物館・展示館等、様々な場所で展示されているので、見学したいと思っても見学しにくい状況だと思えます。「ここに行けば青谷上寺地遺跡が分かる」という場所があるといいのではないのでしょうか。」
(県内東部)

「拠点施設については、「展示・公開」「調査・研究」「収蔵・保管」のほかに「憩い・体験」の場を加え4つの施設とし、それらが一箇所に集められ相互に連携し合っていくことが望ましい。」
(県内東部)

「「地下の弥生博物館」と学術的に高い評価を得ていることを、多くの人に理解してもらえらるような博物館を。「地下の弥生博物館」で終わらずに、「平成に甦った弥生博物館」が早く建設されることを望みます。」
(県内東部)

「環日本海の潟湖研究センター（港湾交易地研究センター）としての位置付けを。」
(県外)